

平成14年度 中間 事業報告書



株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
利益配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
基準日	毎年3月31日 (そのほか必要があるときはあらかじめ公告いたします。)
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 03(3323)7111(代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社本支店
1単元の株式数	1,000株

世界の技術光源になる。

ICHIKOH

市光工業株式会社 〒141-8627 東京都品川区東五反田5丁目10番18号 TEL.03-3443-7281 FAX.03-3443-7233 URL : <http://www.ichikoh.com/>



平成14年4月1日から平成14年9月30日まで

目次

株主の皆さまへ	1
国内ネットワーク	2
財務ハイライト	3
中間連結決算概要	4
中間個別決算概要	6
Topics	8
Driving Manner	10
株式の状況	12
会社概要	13

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに当社グループ平成14年度中間期の営業の概況等をご報告申し上げます。

当上半期におけるわが国経済は、輸出や生産の増加から一部に緩やかな持ち直しの動きがみられたものの、個人消費の低迷に加え、設備投資や公共投資も総じて低調に推移する等、依然として厳しい状況が続きました。

自動車業界におきましては軽乗用車と小型乗用車が引き続き好調に推移したことから、自動車生産台数は前年同期比4.7%増の499万台となり上半期としては2年ぶりにプラスとなりました。

このような環境のもと、当社グループは売上高の拡大、コスト競争力と収益力の向上、利益管理強化及び人材の強化を推進してまいりました。

その結果、当中間連結会計期間の売上高状況、その他の営業概況は次のとおりであります。

当社グループ主力の自動車関連部品の売上高は52,409百万円で、自動車関連以外の部門におきましては、2,101百万円となりました。

上記により、当中間連結会計期間の売上高は54,511百万円となり、収益面につきましては、経常利益は1,005百万円、また、中間純利益は、527百万円をそれぞれ計上することができました。

今後の景気の見通しは、過剰雇用や過剰債務の調整圧力が根強いこと、アメリカ経済等への先行き懸念や株価の低迷など、依然として厳しい状況が続くものと思われま

す。自動車業界におきましては、生産活動の減退や生産性再構築の進行により厳しい環境が続いているものの、モデルチェンジ効果による軽乗用車と小型乗用車は引き続き好調に推移していくものと思われま

す。当社グループはこのような情勢のもと、さらなる品質向上と販売拡大、コスト競争力・収益力の向上に向け邁進していく所存であります。

以上により平成15年3月期の連結決算見通しにつきましては、売上高115,000百万円、経常利益3,100百万円、当期純利益は1,600百万円を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年12月

代表取締役社長

市川 侑男



国内ネットワーク

当社は、国内5製造所、7営業拠点及び技術開発拠点のネットワークを展開しております。



拠点の紹介



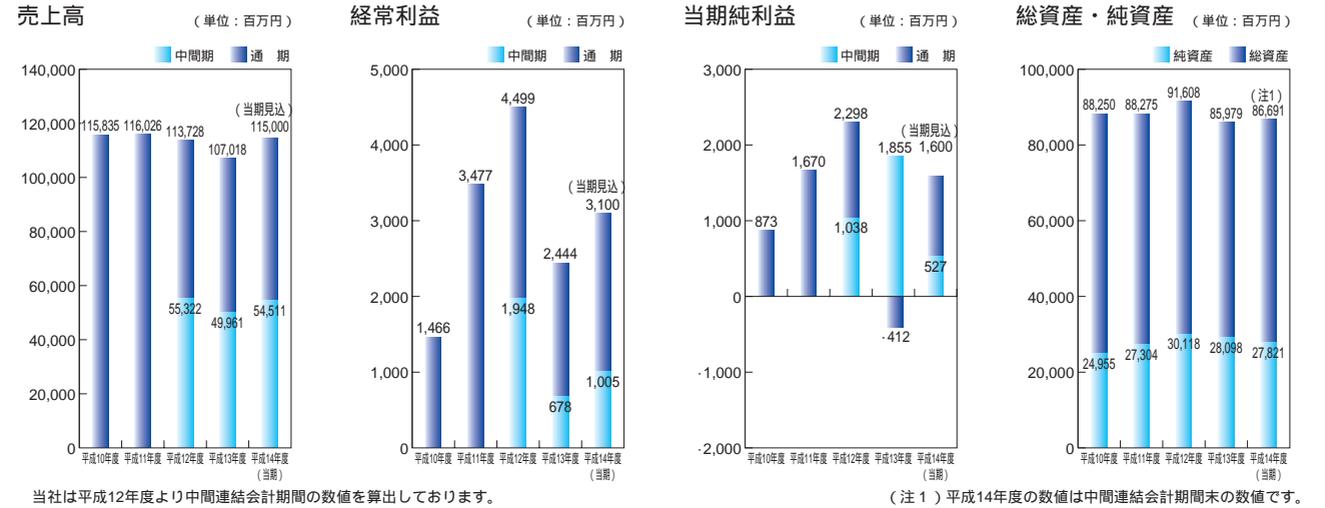
伊勢原製造所 Isehara Plant
テクニカルセンターと一体で稼働している市光のモデル工場です。



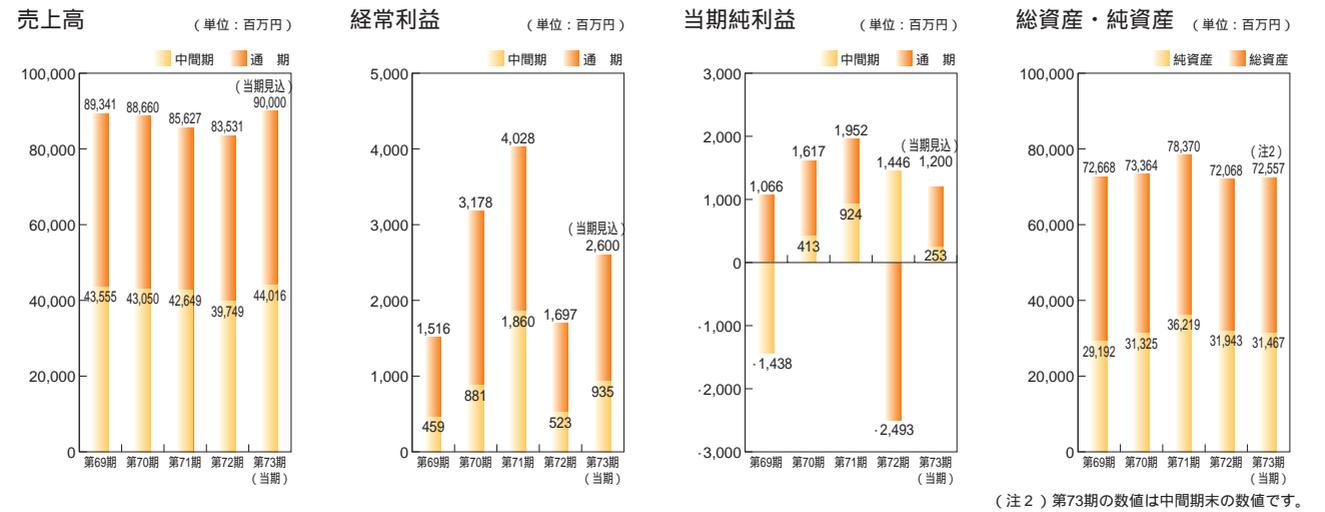
テクニカルセンター Technical Center
市光の技術開発の中枢です。日夜、最先端の研究・開発を行っております。

財務ハイライト

連結財務ハイライト



個別財務ハイライト



中間連結決算概要

中間連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当中間連結会計期間末 平成14年9月30日現在	前連結会計年度末 平成14年3月31日現在	科 目	当中間連結会計期間末 平成14年9月30日現在	前連結会計年度末 平成14年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流動資産	48,324	47,654	流動負債	38,848	40,824
現金及び預金	11,349	8,665	支払手形及び買掛金	21,508	21,468
受取手形及び売掛金	20,135	21,748	短期借入金	6,230	5,171
有価証券	81	81	1年以内返済予定の長期借入金	2,433	2,631
たな卸資産	8,950	8,741	1年以内償還予定の社債	-	3,516
繰延税金資産	1,070	1,176	未払金	880	950
その他	6,772	7,310	未払法人税等	1,000	488
貸倒引当金	36	70	未払費用	3,149	3,252
固定資産	38,366	38,325	製品保証引当金	757	995
有形固定資産	25,063	25,093	その他	2,888	2,349
建物及び構築物	7,564	7,847	固定負債	19,119	16,080
機械装置及び運搬具	6,028	5,826	社債	980	1,066
工具器具及び備品	2,763	2,546	長期借入金	9,912	7,264
土地	6,073	6,091	繰延税金負債	-	8
建設仮勘定	2,633	2,781	退職給付引当金	6,098	5,537
無形固定資産	343	407	役員退任慰労引当金	270	243
投資その他の資産	12,959	12,824	連結調整勘定	36	40
投資有価証券	9,933	10,613	その他	1,820	1,920
長期貸付金	98	98	負債合計	57,968	56,905
繰延税金資産	1,241	524	少数株主持分	901	975
その他	1,854	1,753	資本の部		
貸倒引当金	169	164	資本金	8,929	8,929
資産合計	86,691	85,979	資本剰余金	7,840	7,840
			利益剰余金	11,362	11,170
			その他有価証券評価差額金	2,032	2,426
			為替換算調整勘定	2,340	2,266
			自己株式	2	1
			資本合計	27,821	28,098
			負債、少数株主持分及び資本合計	86,691	85,979

（注1）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

（注2）中間連結財務諸表規則の改正により、当中間連結会計期間における中間連結貸借対照表の資本の部については、改正後の中間連結財務諸表規則により作成しております。なお、前連結会計年度についても変更後の表示区分に組み替えております。

中間連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当中間連結会計期間 平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	前中間連結会計期間 平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで
売上高	54,511	49,961
売上原価	45,693	41,280
販売費及び一般管理費	8,104	8,172
営業利益	713	508
営業外収益	928	652
営業外費用	636	483
経常利益	1,005	678
特別利益	97	2,971
特別損失	169	236
税金等調整前中間純利益	933	3,413
法人税、住民税及び事業税	792	1,645
法人税等調整額	325	173
少数株主利益	61	86
中間純利益	527	1,855

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当中間連結会計期間 平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	前中間連結会計期間 平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,913	1,175
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,858	2,431
財務活動によるキャッシュ・フロー	276	872
現金及び現金同等物に係る換算差額	95	25
現金及び現金同等物の増減額	2,683	2,760
現金及び現金同等物の期首残高	8,727	13,090
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,410	15,850

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間個別決算概要

中間貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第73期中間期末	第72期末	科 目	第73期中間期末	第72期末
	平成14年9月30日現在	平成14年3月31日現在		平成14年9月30日現在	平成14年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流動資産	36,959	36,539	流動負債	28,011	30,070
現金及び預金	7,266	4,450	支払手形	11,747	11,093
受取手形	484	444	買掛金	6,749	6,728
売掛金	18,362	20,082	短期借入金	1,670	1,930
有価証券	22	23	1年以内返済予定の長期借入金	1,671	1,383
製品	2,169	1,885	1年以内償還予定の社債	-	3,516
原材料・貯蔵品	1,041	966	未払金	277	125
仕掛品	611	568	未払法人税等	921	255
前払金	1,367	1,616	未払費用	2,328	2,358
未収入金	3,981	4,754	製品保証引当金	757	995
繰延税金資産	1,237	1,066	その他	1,889	1,685
その他	997	1,043	固定負債	13,079	10,054
貸倒引当金	581	361	長期借入金	5,391	2,908
固定資産	35,598	35,529	退職給付引当金	5,646	5,131
有形固定資産	18,485	18,655	役員退任慰労引当金	263	237
建物	5,286	5,412	長期預り金	1,777	1,777
構築物	391	421	負債合計	41,090	40,125
機械及び装置	4,480	4,322	資本の部		
車輜運搬具	74	78	資本金	8,929	8,929
工具器具及び備品	1,695	1,645	資本剰余金	7,393	7,393
土地	4,290	4,293	資本準備金	7,393	7,393
建設仮勘定	2,266	2,481	利益剰余金	13,148	13,224
無形固定資産	289	352	利益準備金	1,543	1,543
ソフトウェア	190	253	配当引当積立金	600	600
その他	99	99	固定資産圧縮積立金	367	372
投資その他の資産	16,822	16,521	別途積立金	8,909	8,709
投資有価証券	9,289	9,976	中間(当期)未処分利益	1,728	1,999
関係会社株式	5,973	5,536	その他有価証券評価差額金	1,999	2,397
長期貸付金	33	39	自己株式	2	1
繰延税金資産	907	417	資本合計	31,467	31,943
その他	731	661	資産合計	72,557	72,068
貸倒引当金	113	110	負債及び資本合計	72,557	72,068

(注1) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(注2) 商法施行規則(平成14年法務省令第22号)の施行により、当中間期から資本の部の表示方法を変更しております。なお、前期についても変更後の表示区分に組み替えております。

中間損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第73期中間期	第72期中間期
	平成14年4月1日から平成14年9月30日まで	平成13年4月1日から平成13年9月30日まで
売上高	44,016	39,749
売上原価	38,868	34,634
販売費及び一般管理費	4,657	4,773
営業利益	490	341
営業外収益	887	506
受取利息及び配当金	69	65
その他の営業外収益	817	440
営業外費用	441	324
支払利息	50	72
その他の営業外費用	391	252
経常利益	935	523
特別利益	86	2,963
固定資産処分益	48	0
その他の特別利益	38	2,962
特別損失	441	999
固定資産処分損	31	135
その他の特別損失	409	864
税引前中間純利益	580	2,486
法人税、住民税及び事業税	703	1,537
法人税等調整額	375	496
中間純利益	253	1,446
前期繰越利益	1,475	4,780
中間未処分利益	1,728	6,226

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。



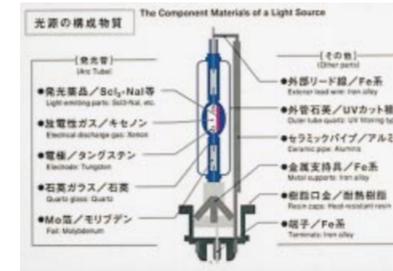
多彩なモデルに、多彩なフォルムの安全性能を提供しています

それぞれのクルマのデザインに合わせ、常にベストの安全を提供し続けるICHIKOH。高度な配光設計シミュレーションや、製品の見栄えを忠実に再現する3Dシミュレーション等、その先進の開発技術と確かな品質は、国内・国外の自動車メーカーからの高い評価と信頼に表れています。ヘッドランプ、リアコンビネーションランプ、ドアミラー…。あなたのクルマにもきっとICHIKOHの製品が使われています。

ICHIKOH WORKS

水銀フリーHID（高輝度放電灯）ヘッドランプシステム

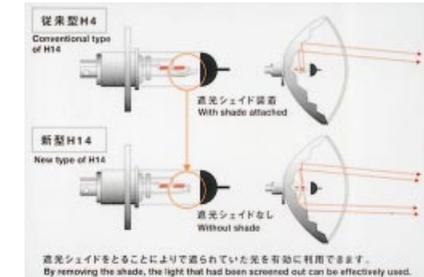
Hg-Free HID (High-Intensity Discharge) Headlamp System



近年、地域環境問題への関心の高まりから「環境負荷物質」の使用規制・禁止への動きが全世界的に広がってきている中、市光工業株式会社及びハリソン東芝ライティング株式会社は、世界で初めて環境有害物質の水銀を一切使用しない次世代「水銀フリーHIDヘッドランプシステム」の共同開発に成功しました。2003年の実用化をめざし、国内外の規格化を推進します。

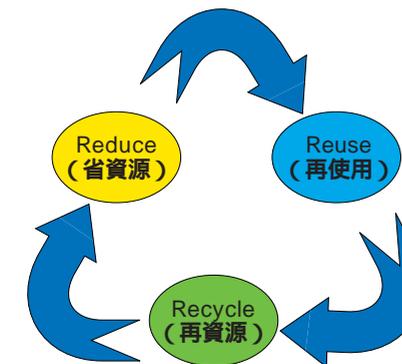
H14 高効率ハロゲンバルブ & 高照度ヘッドランプシステム

H14 High-Efficiency Halogen Lamp & High-Illuminance Headlamp System



現行H4ヘッドランプに比べ25%明るい配光性能を実現した高性能・低コストな日本初のグローバルヘッドランプシステム「H14高効率ハロゲンバルブ」と、新光学系リフレクターを組み合わせた「高照度ヘッドランプシステム」の開発に成功。日本、欧州、米国全てに対応でき、各メーカーの世界戦略車への搭載を可能にしています。(2001年5月、ECE規格作成国際機関GTBの正式承認取得)

ICHIKOHは「3つのR」、Reduce (省資源)、Reuse (再使用)、Recycle (再資源) という3ステップに基づいたリサイクル活動を行っています



リサイクルヘッドランプ

ヘッドランプ傷つき防止用に表面処理されるハードコートは、回収時に十分な剥離処理をしないと再生不能でした。ICHIKOHでは従来の表面硬化処理の代わりに、ウレタン層を二重に重ねる特殊技術でこれを解決。そのまま粉砕可能な製品の開発に成功しました。

樹脂アジャストスクリュー

従来、5つの異なる樹脂パーツで組み立てていたアジャストスクリューを、十分な機能を保ちながら、たった2つのパーツで構成。回収時の分別を容易にし、高いリサイクル性を確保しています。

熱可塑性リフレクター

ヘッドランプのリフレクターは通常、耐熱性確保のため熱硬化性樹脂が使われていますが、回収時点で溶かすことができないのが大きな問題でした。ICHIKOHでは十分な耐熱性を確保したうえで、リサイクルの容易な熱可塑性樹脂を採用しています。

Head
のマナー
Lamp

バルブを選んで光量アップ



H1とH4がヘッドランプ用バルブの主流

クルマのランプで一番大切なのはヘッドランプです。有効に路面を照らすため、いろいろな工夫が施され、常に明るくて見やすいヘッドランプが作られてきました。

今でもタングステンフィラメントを使ったシールドビームもありますが、多くはハロゲンランプです。これは、ハロゲンガスを封入したバルブをランプユニットに使うもので、ロービームとハイビームの兼用ランプにはH4が、プロジェクターランプやハイビーム専用ランプにはH1が使われています。

H4はダブルフィラメントタイプで、ロービーム用のフィラメントには、遮光のためのシェードが付けられ、上方への光の広がりを抑えています。以前は、H4を小型にしたH6が使われていましたが、

現在は、H1とH4でヘッドランプ用バルブをほぼカバーしています。ヘッドランプ用ハロゲンバルブでは、ハイワットタイプが売られていますが、エネルギー効率からH4で60/55W、H1などで55Wが標準的です。このほかでは、フォグランプに小型のH2やH3が使われています。

光量アップの落とし穴

ヘッドランプの光量アップは、ハイワットバルブに交換するのが一般的です。道路運送車両法の保安基準で光量はヘッドランプで22万5千カンデラを超えないこと、と定められていますが、カーショップなどで売られているバルブには、これを超えるものはまず無いので取付けることができます。

ただし、注意しなければいけないのは、あまりにもワット数の大き

なバルブに交換しないこと。100Wのバルブに交換することは可能なのですが、熱でプラスチック製のレンズやランプユニットが変形したり、バルブ自体が切れてしまうことがあります。また、ワイヤーハーネスを流れる電流も多くなるので、場合によっては、発熱したりヒューズが飛んでしまうこともあります。

また、ハイワットバルブの装着時には、光軸に十分に注意することが必要です。間違っても上向きになってはいけません。明るいうえに光軸が上を向いていると先行車や対向車は、標準バルブのハイビームで照らされているよりも眩しい場合があるからです。これは、安全面で非常に問題。光軸調整はくれぐれも慎重に行いたいものです。

もっと明るく高性能なHIDランプが登場

ランプユニットは、レンズのカット形状や反射鏡の設定によって、照射範囲や到達距離が違ってきます。最近では、レンズ部分に工学的な処理をしないで、反射鏡の特性を活かして作られたものも多くなってきました。さらに改良されたヘッドランプユニットとしては、プロジェクターランプがあります。これは、高い光エネルギーを映

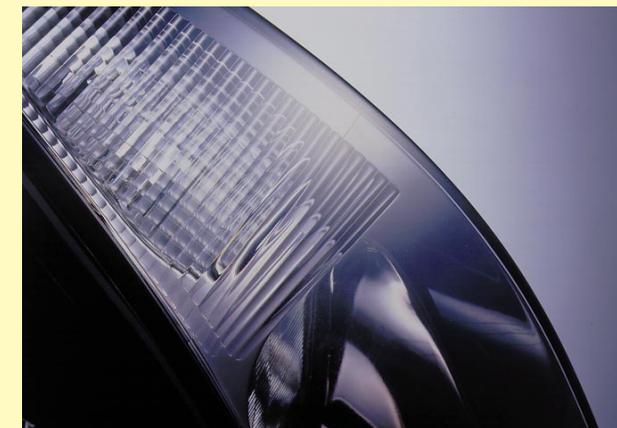
写機のように集中して使うもので、同じハロゲンであっても到達距離と照度に優れたものです。

最も新しいランプには、放電管を発信回路で昇圧するHIDランプがあります。これは、ハロゲンに比べ消費電力は70%、光量は2倍と高性能で、コントラストのある光で視認性が良いなど、その優れた特性により今後ランプの主流になると考えられます。



Head
のマナー
Lamp

ライトのON・OFFの回数で バルブの寿命は短くなる!?



ランプのON・OFFは、バルブそのものにとっては、かなり過酷な瞬間です。理論的には、ONのとき急激に流れる電流や、ON・OFFを繰り返すことで、フィラメントが熱くなったり冷えたりして、消耗を早めてしまいます。

しかし、平均的な寿命が800時間といわれるバルブにとって、ON・OFFによるダメージはほとんど問題のないレベルなのです。バルブの寿命にこだわるより、必要に応じてランプをON・OFFして、安全性を優先した方が合理的です。

株式の状況 (平成14年9月30日現在)

株式の総数及び資本金

資本金	8,929,538,428円
発行済株式の総数	96,036,851株
授權株数	200,000,000株

株式の異動

名義書換件数	125件
名義書換株式数	3,265,470株
期末株主数	11,291名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株式数	持株比率
ヴァレオ・バイエン	19,851 千株	20.67 %
トヨタ自動車株式会社	5,869	6.11
株式会社みずほコーポレート銀行	4,800	4.99
株式会社あおぞら銀行	2,909	3.02
ダイハツ工業株式会社	2,712	2.82
株式会社UFJ銀行	2,068	2.15
日本生命保険相互会社	2,029	2.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,994	2.07
みずほアセット信託銀行株式会社	1,913	1.99
UFJ信託銀行株式会社	1,757	1.82

(注1) 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

(注2) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式は、証券投資信託等の信託を受けている株式です。

会社概要 (平成14年9月30日現在)

商号

市光工業株式会社

設立

昭和14年12月20日

事業所

本社	〒141-8627 東京都品川区東五反田5-10-18 TEL 03 (3443) 7281
テクニカルセンター	〒259-1192 神奈川県伊勢原市板戸80 TEL 0463 (96) 1488
伊勢原製造所	〒259-1192 神奈川県伊勢原市板戸80 TEL 0463 (96) 1451
大泉製造所	〒370-0523 群馬県邑楽郡大泉町吉田1216-1 TEL 0276 (63) 2271
藤岡製造所	〒375-8508 群馬県藤岡市東平井1467 TEL 0274 (23) 2211
中津川製造所	〒509-9132 岐阜県中津川市茄子川1646-37 TEL 0573 (68) 6615
ミラー製造所	〒375-8507 群馬県藤岡市藤岡1360 TEL 0274 (23) 2121
中部支店	〒465-0025 愛知県名古屋市中東区上社3-2112-2 TEL 052 (709) 2011
AM札幌センター	〒005-0036 北海道札幌市南区南36条西11-2-13 TEL 011 (581) 2166
大泉営業所	〒370-0523 群馬県邑楽郡大泉町吉田1216-1 TEL 0276 (63) 0760
大阪営業所	〒564-0052 大阪府吹田市広芝町15-39 TEL 06 (6384) 6551
広島営業所	〒732-0053 広島県広島市東区若草町3-20 TEL 082 (261) 2208
九州営業所	〒802-0003 福岡県北九州市小倉北区米町1-3-1 TEL 093 (522) 5711

取締役及び監査役

代表取締役社長	市川 侑 男
専務取締役	寺田 勝 彦
専務取締役	吉沢 忠 勝
専務取締役	大雲 直 哉
常務取締役	青木 俊 朗
常務取締役	磯部 孝 征
取締役相談役	持丸 守 守
取締役	神谷 尚 幸
取締役	吉川 祐太郎
取締役	山本文 雄
取締役	津崎 栄 二
取締役	中野 孝 雄
取締役	東出 洋 治
取締役	山本 政 美
取締役	二川 幸 司
取締役	ティエリー・ドゥリユー
常勤監査役	手塚 昭 佳
常勤監査役	伊藤 博 之
監査役	大沼 淳
監査役	鹿島 芳 久

従業員数

連結	3,601名
単独	2,169名

株価及び株式売買高の推移

